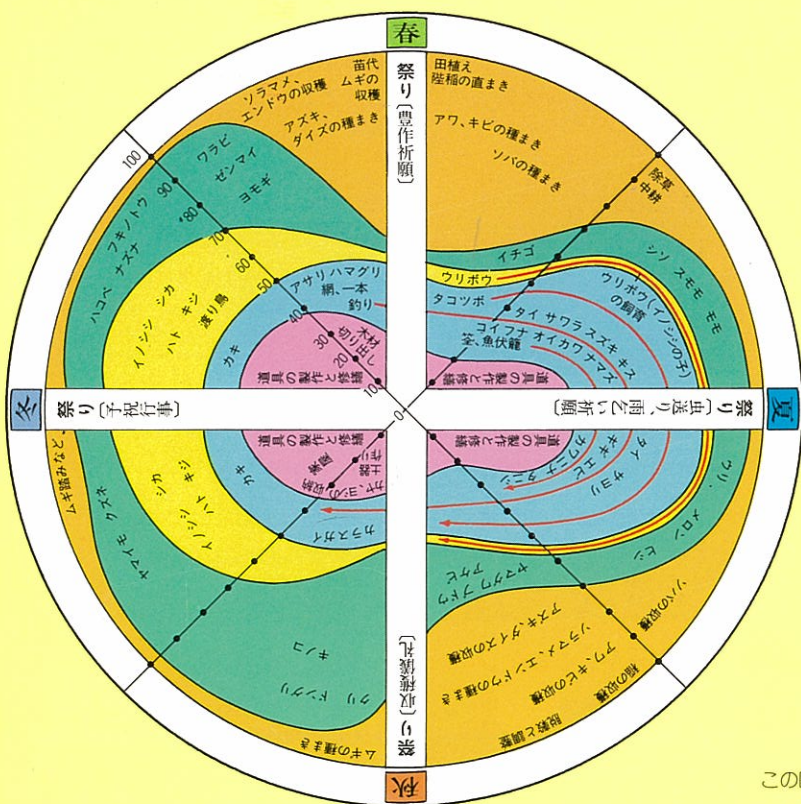


# 弥生時代の人々の1年 —弥生カレンダー—

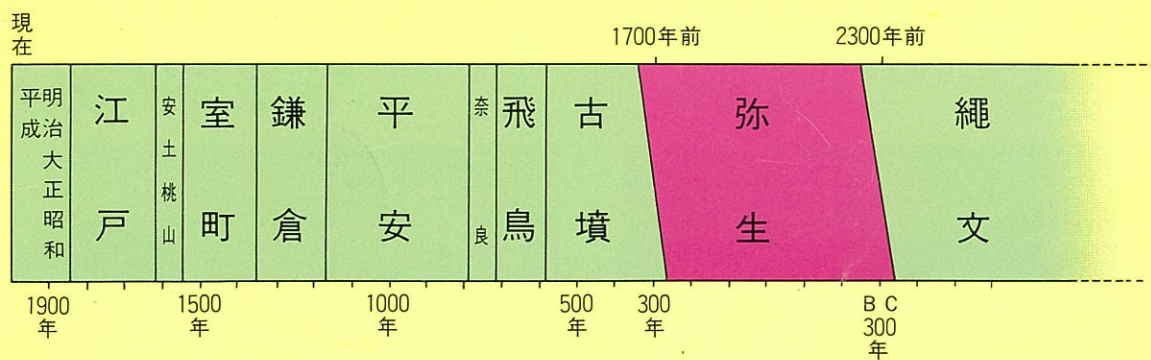


数字は、労働量の総体を100%とした場合の、各生業の労働量の割合を示しています。

- 農業
- 採集
- 狩猟
- 漁労
- その他の労働

この図は瀬戸内地方の沿岸平野に立地する遺跡をモデルにして作成したものです。(原図 甲元眞之氏)

## 年表



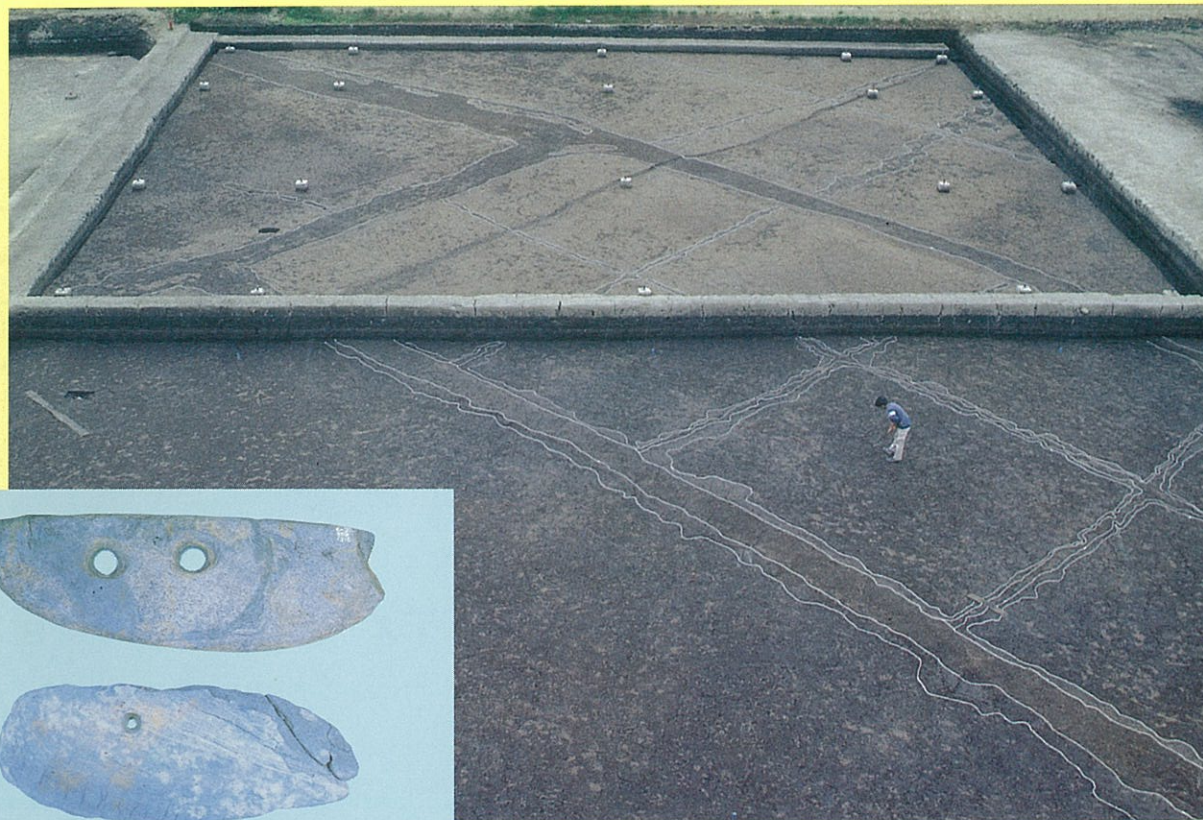
表紙の写真

上 太白区富沢遺跡、弥生時代の水田跡  
下 富沢遺跡出土の石庖丁

- 第19回文化財展パンフレット
- 発行 仙台市教育委員会文化財課  
仙台市青葉区国分町三丁目7-1  
(TEL 022-261-1111)
- 発行日 平成5年12月11日
- 印刷 樹共新精版印刷

# 米作りをはじめた人々

— 弥生時代 —



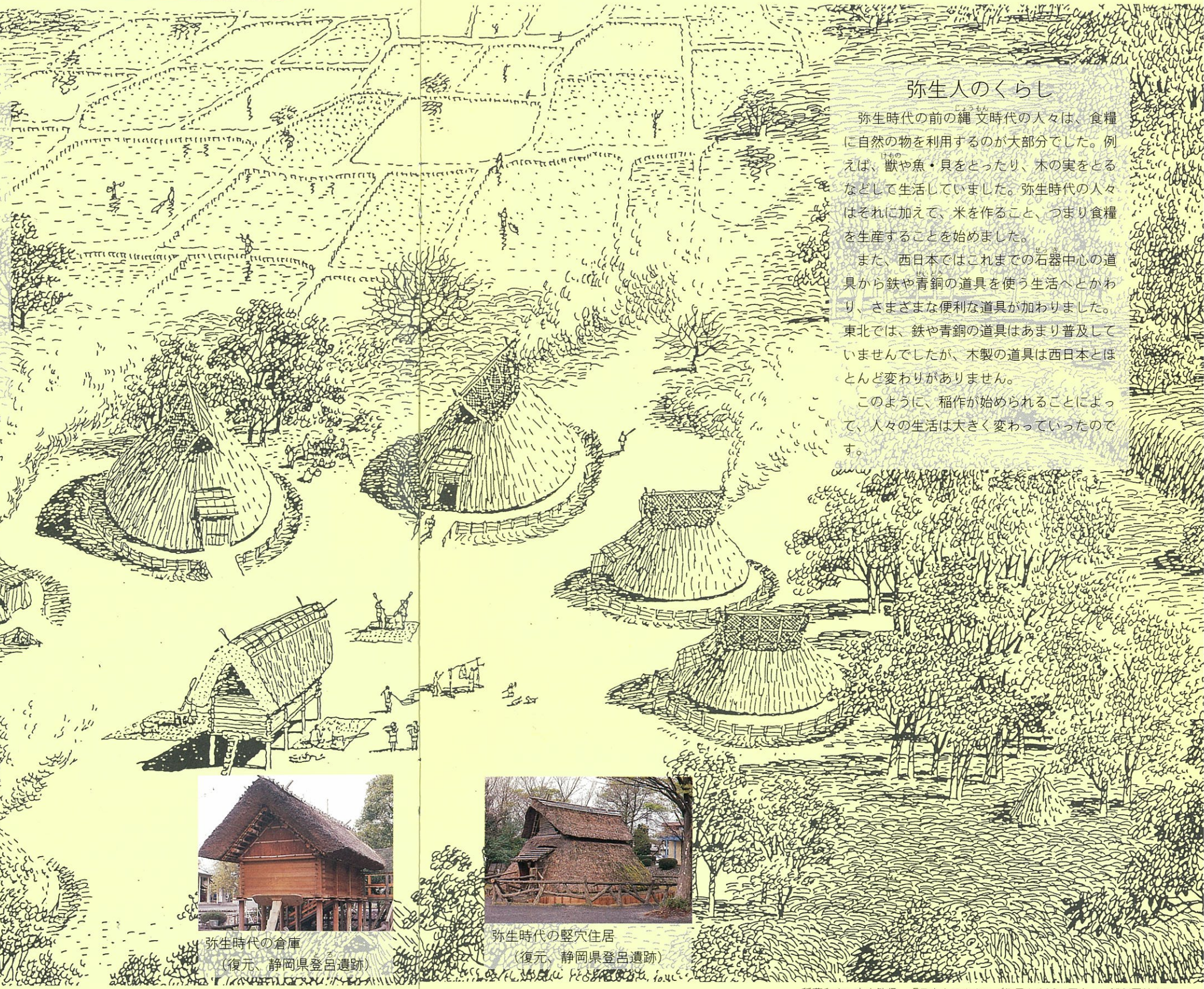
仙台市教育委員会

# 弥生時代の風景

## 弥生時代とは

今から2300年ほど前、大陸から伝わった稲作の技術、金属器の使用、機織りの技術などの内容をもった文化が北九州地方で始まりました。この時代は、東京都文京区弥生町で最初に発見された「弥生式土器」にちなんで、弥生時代と呼ばれています。弥生時代は、1700年前（紀元3世紀）までの約500～600年間続きます。

稲作の開始は人々の生活に大きな変革をもたらし、それまでのまとまりのない個々の集団が次第に統一され、支配する者と支配される者に分かれ始め、やがて日本が国家的統一へと歩み始める契機となりました。

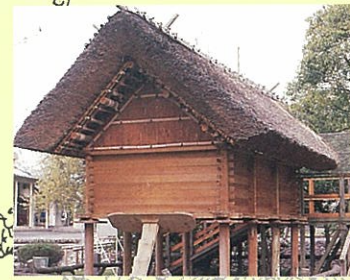


## 弥生人の暮らし

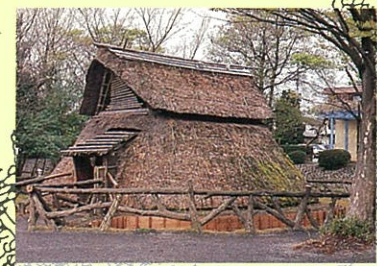
弥生時代の前の縄文時代の人々は、食糧に自然の物を利用するのが大部分でした。例えば、獣や魚・貝をとったり、木の実をとるなどして生活していました。弥生時代の人々はそれに加えて、米を作ること、つまり食糧を生産することを始めました。

また、西日本ではこれまでの石器中心の道具から鉄や青銅の道具を使う生活へと変わり、さまざまな便利な道具が加わりました。東北では、鉄や青銅の道具はあまり普及していませんでしたが、木製の道具は西日本とほとんど変わりがありません。

このように、稲作が始められることによって、人々の生活は大きく変わっていったのです。



弥生時代の倉庫  
(復元、静岡県登呂遺跡)



弥生時代の竪穴住居  
(復元、静岡県登呂遺跡)

# 弥生時代の人々の生活の跡

弥生時代の人々が生活を営んだ跡として、仙台市内の遺跡から発見されたものでは、水田跡、土城墓（穴を掘っただけの墓）、土器棺墓（土器に遺体を埋葬した墓）、わずか1軒ですが竪穴住居跡があります。土器やささまざまな道具などの出土のようすからみて、仙台市内にも住居跡や倉庫跡がまわっている大集落があったことが予想されますが、現在のところ明らかになっていません。



水田跡 富沢遺跡



竪穴住居跡 土手内遺跡



土器棺墓 中在家南遺跡



河川跡から出土した日本最古の扉板 中在家南遺跡

# 弥生時代の道具

最近発掘調査が行われた中在家南遺跡・高田B遺跡の河川跡から多量の土器・石器・木製品などが出土し、次第に弥生時代の農具や工具などの特徴が仙台市内においてもわかるようになってきました。ここでは、仙台市内の遺跡から出土したものの一部を用途ごとに紹介しましょう。

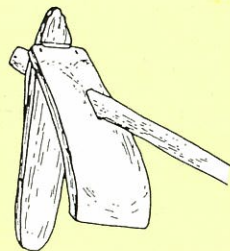
## 田を耕したりする道具



狭鋤 中在家南遺跡 (幅の狭い鋤)



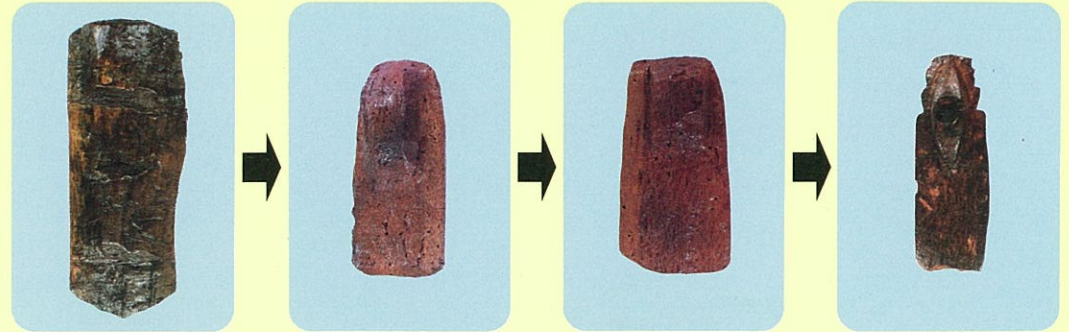
泥除け 中在家南遺跡 (鋤にとりつけて泥がかからないようにしたもの)



狭鋤に泥除けをつけた様子

## 〜広鋤ができるまで〜

4点とも高田B遺跡



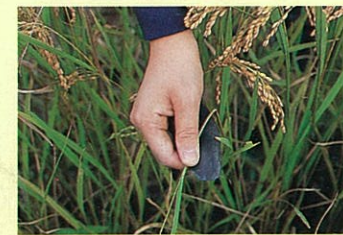
加工のはじまり おおまかな形を作る 柄の装着部分を整える 完成

高田B遺跡では河川跡から製作途中の鋤や石庖丁なども出土しています。その結果、鋤、石庖丁、石斧などの作り方も復元できるようになりました。

## 収穫するための道具



石庖丁 高田B遺跡

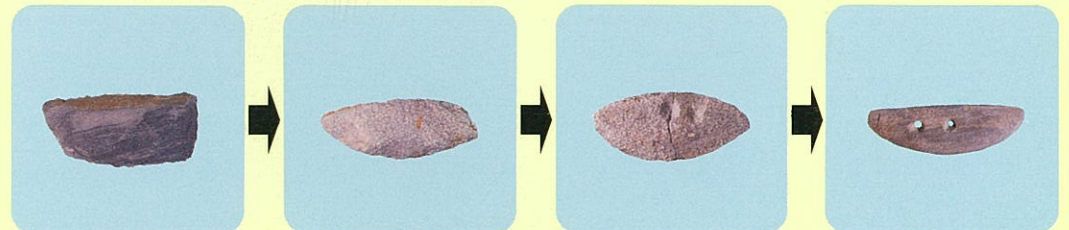


石庖丁の使い方(復元)

弥生時代は稲の根元から刈り取るのではなく、稲の穂首から刈り取っていました。(穂首刈)

## 〜石庖丁ができるまで〜

4点とも高田B遺跡

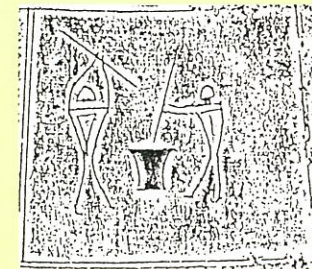


おおまかな形に割る 形を整える 穴をあける 完成

## 脱穀するための道具

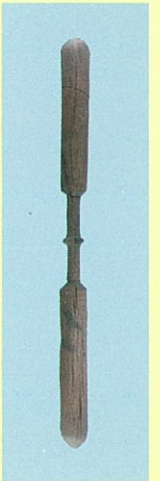


臼 中在家南遺跡

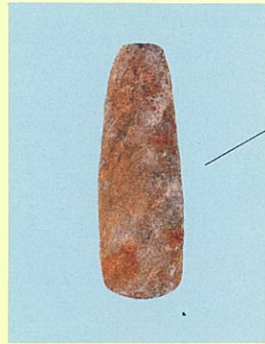


脱穀(籾殻を穀粒から取りさること)は銅鐺の絵に描かれているように臼と杵を使って行われました。

縦杵 中在家南遺跡



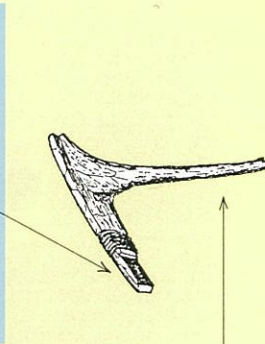
## 木を切ったり削ったりする道具



ふとがたはまぐりばせき 高田B遺跡  
大型 蛤刃石斧 (伐採・切断用に使った)



へんぺいかたば 高田B遺跡  
扁平片刃石斧 (削り作業に使った)



ノミ形石斧 高田B遺跡  
(細部の加工に使った)

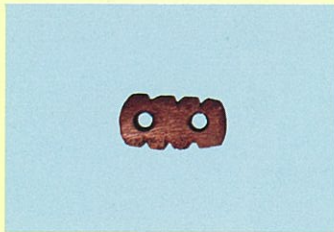


おの 中在家南遺跡  
斧の直柄 (大型の石斧をつけて木の伐採・切断に使った)



ひざえ 中在家南遺跡  
斧の膝柄 (片刃の石斧をつけて加工用に使った)

## アクセサリー



つ 鹿の角でつくられた装飾品  
中在家南遺跡



ふくろま 中在家南遺跡  
墓に副葬された玉類(管玉と勾玉)

## 狩りの道具



ゆばざしゅうろくかくけいひん 中在家南遺跡  
弾状鹿角製品 (鹿の角でつくられた弓の端部の弦を止めるもの)

中在家南遺跡では、魚獵刺突具(魚撈・狩猟に使用されたと考えられる)や針状の骨角器など各種の加工された道具と共に多量の動物の骨がみつかっています。

## 弥生土器

東北地方の弥生土器は縄文時代の伝統を引き継ぎ、土器表面に縄目の文様も施されています。形も煮炊きに使った甕、貯蔵に使った壺、食物を供えるのに使った高環などがあります。



1~3 郡山遺跡  
4~5 中在家南遺跡

## 仙台市内の主な弥生時代の遺跡



中在家南遺跡 河川跡



富沢遺跡 小さな区画の水田跡



しもの内浦遺跡 土壙墓からみつけた石庖丁と石斧



高田B遺跡 河川跡

この他にも、南小泉遺跡、西台畑遺跡、郡山遺跡、藤田新田遺跡、押口遺跡、土手内遺跡などの遺跡があります。